

二〇一九年六月二四日

抽んでし架橋の主塔夏霞
よき風をいなして揺るる軒簾
林道を抜けて展けし麦の秋
八つ橋の陰頼みとす蝌蚪の国

素 秀
せいじ
愛 正
たか子

二〇一九年六月一三日

どくだみの花の白さや夕散歩
水遣ればふはり風立つ菖蒲茶屋
腰下ろす畦に干し草匂ひ立つ

こすもす
なつき
三 刀

二〇一九年六月二二日

下校児の奇声に覚めし昼寝かな
峠茶屋足休ませて心太
田の泥に足取られつつ苗起こす

せいじ
宏 虎
明日香

青天井縦横無尽みずすまし
名水の岩の常濡れ苔の花

たか子
ぼんこ

二〇一九年六月二一日

ジャンプして脚長きこと雨蛙
医通ひもドライブ気分青葉道
初生りの茄子で夕餉や共白髪
たたなづく青嶺幾座や展望台

たか子
菜 々
よう子
明日香

二〇一九年六月一〇日

立葵谷戸に明治の木の校舎
夕焼を映して燃ゆる忘れ潮
ごろ寝ふと覚むれば傍に蚊遣香

宏 虎
素 秀
せいじ

二〇一九年六月九日

葉隠れにお化け胡瓜となつてゐし
丹精のトマトを孫の家苞に

やよい
三 刀

二〇一九年六月八日

公園の要の古墳青葉園
日々太る庭のトマトに夫機嫌
堀端に小舟一艘花菖蒲
燕の巢今朝は空つぽ小糠雨

菜 々
菜 々
愛 正
智恵子

毎日句会みのる選・二〇一九年六月一六日